

## 本校の実態と改善に向けた取組

朝来市立中川小学校

### I 国語

#### 1 結果分析

- (1) 全国平均・県平均と比べ正答率は下回っています。
- (2) 特に、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に該当する設問の正答数が低く、課題があると考えられます。
- (3) また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」においても正答人数の割合が低く、今後一層、言語活動の充実が必要とされます。
- (4) 課題が見られた設問は、いずれも「選択式問題」であり、問題文や選択する文を丁寧に読まずに回答していることも想定されます。

#### 2 課題解決に向けて

- (1) 本校がめざす児童像は、「授業がよくわかるので、学校に行くのが楽しい子」です。具体的な方策として、①思考力・判断力・表現力をいかに伸ばしていくかという最重要課題に立ち向かう(言語活動の充実) ②とにかく、より長い時間、読書させる(読書習慣の定着)等、に取り組んでいます。
- (2) ①については、各学年・学級における言語能力の課題を明確にし、「私の国語教室」と銘打って課題に応じた具体的な取組(朝のスピーチ、読解力育成シートの定期的な活用、話す聞くスキルアップ等)を継続しているところです。
- (3) ②については、各学年で発達段階に応じた読書活動の推進を行っています。一つには、前述した国語教室の取組の一環として、主に読書の記録を残していくことで児童の意欲を高めようとしています。低学年の読書の木にシールを増やしていく活動から、高学年のリレー形式で読書を進めていく活動まで多様な取組を行っています。二つ目は、児童会図書委員会の活動として、おすすめの本を選択しそれをより多く読んだ児童には表彰されるというようなことで意欲喚起につなげています。

### II 算数

#### 1 結果分析

- (1) 全国平均・県平均と比べ正答率は下回っています。
- (2) 「数と計算」領域と「速さ」についての理解(正答数)が低いことが主な原因になっています。このことから、算数科では、「数と計算」と「速さ」に関わる学習に課題があると考えられます。
- (3) 1 (1) の設問においては、「 $72 + 28$ 」とするところを「 $72 - 28$ 」としている児童の割合が高く、これは問題文中の「…少ないです。」に引

っ張られて、少ない＝ひき算としてしまったのではないかと考えます。つまり、課題の一つ目としては、問題文を十分に読み取れていないことがあげられます。

- (4) 4 (4) の設問においては、家から郵便ポスト分速200mと郵便ポストから図書館分速200mを足して、家から図書館分速400mとしているであろう児童が多いです。このことは問題を解くにあたって、習得したきまりや定理が活用できていないことを意味すると考えます。

## 2 課題解決に向けて

- (1) 数図ブロックやノートの上での絵、テープ図、線分図等の活用を十分に取り入れながら、「・・・○個ふえました。」＝たし算、「・・・△人いなくなりました。」＝ひき算のような求め方に、安易に慣れてしまわないことが重要です。
- (2) 本校は昨年度の校内研修において算数科の授業づくりを追究しました。そこでも「なぜそのような式になるのか」といった児童による説明(＝アウトプット)の重要性について確認しました。今後も引き続き、問題(課題)提示⇒自力解決⇒児童による説明・・・という授業の流れを効果的なものにしていきたいです。

## Ⅲ 質問紙

### 1 結果分析

#### 【生活に関すること】

家庭においてテレビゲームや動画視聴に時間を費やしていることが日々の寝起きの時刻を不規則なものにしており、ひいては生活リズムの乱れや学習への集中力の低下につながっている場合があると考えます。

#### 【学習に関すること】

平日、休日とも、家庭での学習時間が、概ね県や全国に比べて少なく、これは上記の生活実態とも関連していると考えます。今後中学校進学を視野に、まずはより規則正しい生活が望まれます。

### 2 今後に向けて

今後、以下の3点について学校全体で取り組めるように努めます。

- (1) 授業中に少人数で話し合う(課題解決する)等の活動を取り入れて、児童が学びの主体となるような授業づくりに努めます。
- (2) 自分たちで考えたり決めたりする活動を通して、個々の活躍の場を増やしていけるように努めます。
- (3) 自己の課題を探り、目標を立てて、自己点検する機会を増やせるように努めます。